

* 研究目的

甲南大学の百周年を前にして建学精神に立ち返り、甲南リベラリズムを「郊外開発と文化活動」という視座から検証し、新たに甲南大学の姿を捉え直し、今日的な意義を問い、本学のさらなる未来への展望を考察したい。建学揺籃期の教育的な模索が大正デモクラシーのなかでいかなる変容を見せて、展開していくかを具体的に跡づけて、明確な姿を示すことは、本学の建学精神と教育精神を再検討することにつながっていくであろうと信じる。特に稀代の教育家・経営者である平生を中心とする戦前の建学の活動が、たとえば傑出した一個人のリベラリズムにとどまらず、郊外開発の中にあつた地域社会の文化・社会活動に見られた大正リベラリズムと密接につながり、響きあい、人間的な薫陶による人格陶冶を重視する甲南学園を誕生させ、その教育を特色づけたという研究の視点は、21世紀の大学教育をはじめとする高等教育が抱えている、人間教育や地域社会との連携など諸課題の克服に大きな示唆を与え、平生のめざした教育を現代社会によみがえらせて、新たに生命を吹き込む、言わば「甲南ルネサンス」を生み出すであろう。本研究の目的は、このように甲南の源流を新たな視点で探し、大河の流れの如く脈々と受け継がれてきた歴史をふまえて、未来の学園の姿を提示していくことにある。

* 研究チームメンバーと研究課題

中島 俊郎	文学部・英語英米文学科・教授	イギリス文化史（パブリックスクールと甲南大学の教育的連動）
安西 敏三	法学部・教授	日本思想史（神戸財界人と平生 夙三郎の人脈関係）
石戸 信也	兵庫県立西宮高校・地歴公民科・教諭	神戸文化史（阪神間モダニズムと写真アーカイヴズ）